

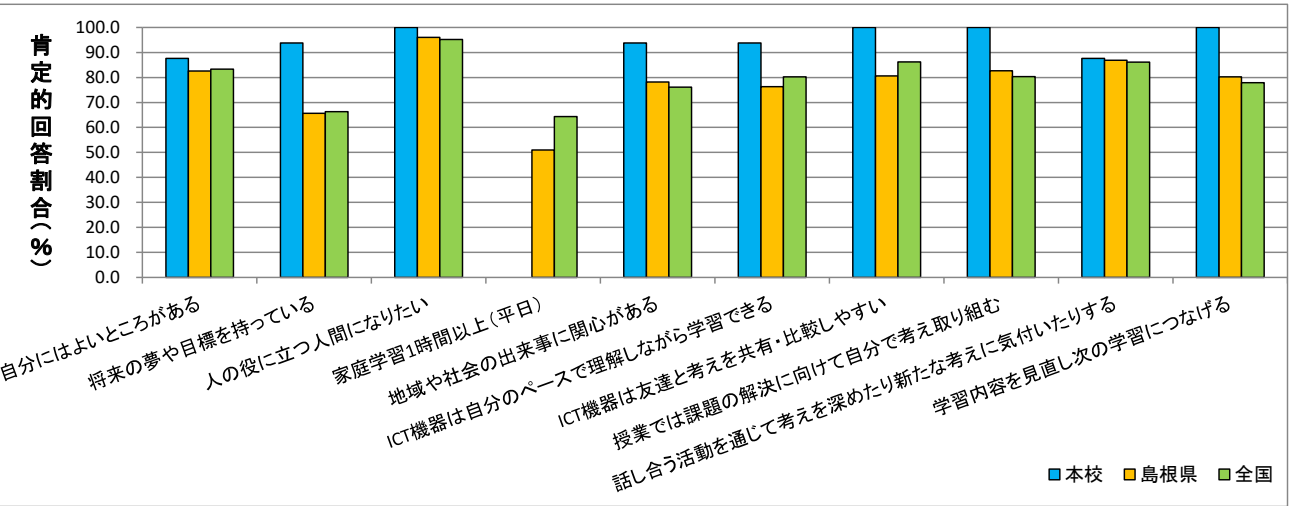
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○ 国語に関する基礎的な知識や技能については着実に習得している生徒が多い。 ○ 文章を読んで内容を読み取る力は県平均、全国平均に近づいてきている。 ● 自分の考えや主張を表現する力は音声、文字の両面で課題を持っている生徒が多い。また情報処理についても苦手な生徒が多い。	・現在実施している新聞記事の要約や授業内での表現活動を工夫継続する中で表現力を養っていく。 ・全体の前で口頭で発表したり、表現したりすることが苦手な生徒も表現活動に取り組みやすくするなど、グループ活動を利用した活動の実施を考えていく。 ・情報処理を目的とした演習活動を取り入れていく。
数学	○関数や図形に関する基本的な知識や技能については身に付けている。 ○一次関数のグラフについて、傾きや切片、交点などの意味を理解している。 ●事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 ●図形の領域では基本的な性質は理解しているが、それらを活用して証明したり新たな性質を見出したりすることに課題がある。	・TTによるきめ細やかな指導や計画的な家庭学習の指導を行い、基本的な知識・技能を身に付けさせる。 ・ペアやグループでの言語活動を取り入れ、数学的な表現を用いて説明し考えを交流する場面を設定する。

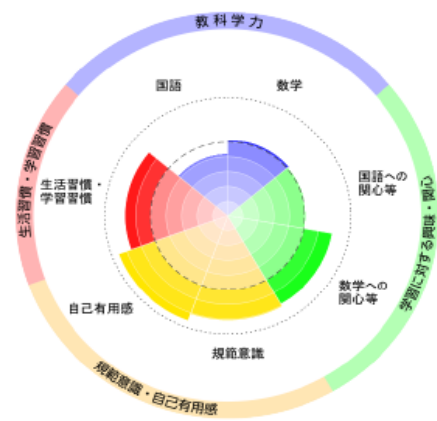
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○基本的な生活習慣を身につけた生徒が多く、地域への愛着や将来への見通しを持っている生徒が多い。ICTとの関わりも自律的な生徒が多く、ICTの特性を利用した学習への取組もみられる。 ●家庭学習への取組が消極的である。	・連絡帳や課題の実施状況から家庭学習の実態把握に努め、適切な個人指導を行う。 ・学級通信や進路だよりを通じて家庭との共通理解を図るとともに学校と家庭で連携した指導にあたる。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

教育のユニバーサルデザイン
理解しやすい説明
分かりやすい板書
ICTを使った情報提示
誰もにとって心地よい教室
楽しく学び合える授業作り

個の生徒の実態に対する支援と指導
個々の習得の違いに対応できる課題
習得までの時間の差に対応できる指導の工夫
メタ認知の活用

【受検者数】
15 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。